

平成29年度 ひまわり幼稚園 自己評価

作成 ひまわり幼稚園

1. 本園の教育方針

- (1) 一人ひとりの個人差に応じた人格形成をもとに、個性を重んじ、知性と創造性の発達を大切にす。
- (2) 家庭および地域社会との交流を密接にし国内外の幼稚園との連携をはかる。
- (3) 身近な自然観察や社会事象にふれる機会を豊かにし、体験を通して、感性を養い、すじみちや、創造性、ルールを守ることの大切さを覚えさせる。
- (4) 地域の環境にマッチした幼児教育の施設としての文化諸行事、講演会、料理、手芸教室などの行事を通して地域の教育センターとしての役割を果たすことに努力する。

2. 本園の教育目標

- (1) 健全な心身の発達の基礎を養う。
- (2) 自分でできることは自分で行い、仲間への思いやり、仲間と協力する態度、習慣を身につける。
- (3) 身近な動植物をかわいがり、自然や社会の事象に対する関心や興味をもたせ、道徳性と思考力の芽ばえを養う。
- (4) 日常生活に必要な言語の使い方の基礎を身につけ、豊かな想像力表現力を育てる。
- (5) うたったり、弾いたり、聞いたり、手拍子を打ったり、描いたり、創造したり、などの経験を通して、創造性や個性的な表現を促して、技能を身につける。

3. 本園の今年度教育課程の各学年の目標

年少

- ・幼稚園に親しみを感じ、喜んで登園し、園生活を安定した気持ちで過ごし、のびのびと楽しく遊ぶ。
- ・園生活の流れや基本的な生活の仕方がわかり、できることは自分でしようとする。

年中

- ・気の合った友達と意欲的に自分の思いや考えを伝え合いながらいろいろな遊びを楽しむ。

年長

- ・集団の中で自己を発揮し、自信を持って園生活を送る。自ら考え、自信を持って行動する。
- ・小学校への期待感が膨らむような時を過ごす。

4. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
I. 保育の計画性	幼稚園教育要領を基にして、ひまわり幼稚園独自の教育課程を編成し、月毎に打合せを行い、子ども達の発達の状況に応じた保育ができるようにしている。また各学年、各コース毎に具体的な場面において日々話し合いながら、共通理解をはかっている。昨年度との比較においては、毎年継続している園内研修等によって、子ども理解がさらに進み、子どもの主体性を大切にした保育計画を考えられるようになってきた。
II. 保育の在り方、 幼児への対応	園内研修を行ったり、打合せ毎に話し合いを行ったりすることで、現在の保育について振り返り、主体性を育むための環境構成や園児への働き掛けをはじめとする保育者としての在り方を再認識する機会としている。上記の項目同様、話し合いで子ども理解を進め共通理解をはかることで、保育者同士の協力・連携が強化され、子ども理解を基本とした保育を考えていく意識が向上することに繋がった。

評 価 項 目	取 組 状 況
Ⅲ. 教師としての資質や能力・良識・適性	<p>保育の専門家として、誇りと自覚を持った言動を心掛け、責任ある立場で子ども達の成長を肌で感じ、共に喜び、より成長できるように保育に携わっている。上記の項目同様だが、研修等における意識改革の成果が出ている。次年度以降も幼稚園教育要領の改訂を意識し、子どもの主体的・対話的で深い学びを大切にしつつ、より専門性を高めようと努力することで教師としての資質や能力・良識・適性を高め、保育の質を高めていきたい。</p>
Ⅳ. 保護者への対応	<p>ホームページやメール配信をはじめ、月毎の園便り等を通じて、情報発信に努めている。幼児期の成長には、園内だけでなく、生活全体、特に家庭生活が大きく関わってくるので、園と保護者との協力体制の中で、子ども達の日々の生活が豊かであることが、子ども達の健やかな成長には望ましいと考える。園での出来事を保護者に伝え、家庭での様子もうかがいながら、共に育てていこうという考えの基、日々の保育を行っている。概ね良好だと考えられるが、保護者の要望にただ単に応えるだけではなく、本当に子どもの育ちにとって必要なことを、一人一人が自覚を持って考え、しっかりと伝えていくように心掛ける等、園と保護者の信頼関係の基、共に手を携えて、子どもの育ちを支えていくことを大切にしている。</p>
Ⅴ. 地域の自然や社会との関わり	<p>卒園児が多数の小学校へと入学していくという複雑な実情もあり、各小学校との連携の難しさは感じるが、卒園児の現況を各小学校から情報として入手できるようになった。人数が多い等の事情もあり、まだまだ園の全ての教職員の共通理解ははかれていないのが現状だが、園内研修等で伝えるようにし、園児が不安なく小学校生活へとつなげていけるようにしていきたい。安全管理上の問題もあり地域への開放はまだ行うことができていないが、安全を確保した上で、園庭開放や子育て支援に積極的に取り組んだり、夏祭りや造形展等で少しずつ地域の方々に参加できるような場を提供したりして、連携をはかっていきたい。</p>
Ⅵ. 研修と研究	<p>日々の保育の中での学びを深めるため、自己研修や研究ができるように、教材等を充実させたり、様々な研修を紹介するよう心掛けていく。目の前の子ども達の現状を様々な観点から理解し、一人一人の発達の状態に応じた援助を工夫している。また、園内研修に外部の専門家を招き、幼児期に必要なことを理解し、子どもの主体性が学びの基礎となるように工夫している。園内の環境に目を向け、子どもの学びの物語を話し合い、互いの思いを伝え合うことで、日常の何気ないことにも気付き、より良い保育を目指して、工夫できるようになればと考える。</p>

5. 今後取り組むべき課題

自己を見つめる中で、課題を持って保育に臨むことができるようになり、評価が概ね良好な状態になり、自己を分析し、振り返り、改善していくというPDCAのサイクルができてきた。園内研修を各学期1回ずつ各コースで実施しているが、子どもが主体性を持って活動するためにはどのようにすればよいかを中心に、事前に計画を立てることで、自らの保育を分析し組み立てる中で子どもの姿を予想し、目の前の今の子ども達の成長に寄り添うことの大切さを再認識することができた。また、話し合いの中で子どもの姿を語り合うことで、客観的に保育を見つめ直す機会ともなっている。特に、造形展では、お店屋さんごっこにつながるような活動を計画し、子どもの主体性を大切にした保育実践を行った。次年度に向けて、より研鑽を深められるような体制作りをするとともに、率先して研修や研究にも関わられるよう促していきたい。

次年度以降も、子ども達の豊かな育ちを支えるために幼稚園があるということ意識し、子ども達への教育だけでなく、保護者や地域、社会にも広く情報発信をする等しながら、幼児教育に携わっていききたい。幼稚園教育要領に改訂の趣旨を理解し、今後も幼児教育の重要性を広く伝える等、より公益性の高いこととしていければと考える。